Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-01

中央砂漠における飲酒をめぐる一連の過程とアナング・ウェイーポスト植民地状況を生きるオーストラリア先住民アボリジニの民族誌

平野，智佳子

(Degree)
博士（学術）
(Date of Degree)
2020-03-25
(Date of Publication)
2022-03-25
(Resource Type)
doctoral thesis
(Report Number)
甲第7641号
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007641

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（別紙様式３）

論　文　要　旨

氏　名　平野智佳子
専　攻　文化相関
指導教員氏名　岡田浩樹　教授

論文題目（外国語の場合は日本語訳を併記すること）

中央砂漠における飲酒をめぐる一連の過程とアナング・ウェイ
―ポスト植民地状況を生きるオーストラリア先住民アボリジニの民族誌

論文要旨

本論文は、オーストラリア中央砂漠におけるアナングの飲酒をめぐる一連の過程とそこに立ち現れるアナング・ウェイと呼ばれる思考の道筋に関する人類学的研究である。飲酒が規制されているアナングが織りなす酒にまつわる行為の束の分析を通じて、ポスト植民地状況を生きるオーストラリア先住民アボリジニの非構造的な思考法を読み解く。研究のもとになった資料は、中央砂漠において2013年から2019年までのあいだに実施した合計12カ月のフィールドワーク、及び関連する報告や行政文書等の文献から得ている。

第Ⅰ部では、オーストラリア植民地主義と先住民アボリジニの関係を、北部準州の飲酒政策や中央砂漠の白人による開拓といったアボリジニの歴史的経験から論じる。第Ⅰ部の課題は、入植にともなう社会変化へのアボリジニの反応や取り組みの分析を通じて、植民地主流社会とアボリジニの関係が複雑に交錯するポスト植民地状況を示し、オーストラリアにおけるアボリジニの現代的生活の一端を描き出すことである。

第一章では、アボリジニの生活に大きな影響を与えた北部準州緊急措置法の成立と経緯を概観したのち、その項目のひとつであるアボリジニへの飲酒規制に関する新聞記事の内容を分析・検討する。ここでは飲酒規制の緩和をめぐって「アボリジニ」と「白人」という人種のカテゴリーをこえた複数のカテゴリーの対立的な図式が生まれていることを示す。

第二章では、北部準州の中でも飲酒状況が最も深刻なことで知られる中央砂漠のアボリジニを対象として、アボリジニと白人入植者との関係の歴史展開を概観する。1970年代、グローバルな先住民ネットワークとの交流や、観光や牧場開発に抗する土地権運動を通じてオーストラリア先住民として実体化したアボリジニが、主流化に付随した現代的問題に対して多様な人間関係や実践を繰り広げ、その内部に様々な軋轢や困難を抱えていることを示す。

第Ⅱ部では、中央砂漠において「アナング」を自称／他称とする人びとに焦点をあて、その場と状況に応じて紡ぎ出される思考、そこに生み出される互酬性や人間関係を、主に飲酒との関連から記述する。第Ⅱ部の目的は、アナングの人びととアナング・ウェイの基本的な概要を説明することで、従来の研究が描き出した西洋文明とは異なるアナング独自の社会秩序や親族体系を、彼らの即興的な思考のあり方から捉え直す足がかりを作ることである。

第三章では、アナングの互酬性や人間関係の構築を移動性に注目して論じる。狩猟採集に基づく移動生活を送っていたアナングは、アボリジニ・コミュニティを拠点とした生活を営むようになったが、自動車の普及や交通状況の改善に付随して移動性はさらに拡張している。この移動性の拡張が「アナング」というカテゴリー形成にいかに関係しているのかを考察する。

第四章では、アナング・ウェイとはいかなるものかを、アナングの飲酒をめぐるトラブルへの対応から論じる。酒が入植者によって持ち込まれてから、酒との付き合いを模索してきたアナングの歴史を概観したうえで、飲酒トラブルに対応する過程で彼らが紡ぎ出してきたアナング・ウェイの代表的な説明を提示する。

第Ⅲ部では、飲酒を規制されるアナングが酒を手に入れる過程を、①酒の資金を稼ぐ、②酒を獲得する、③酒を分配する、の三段階に分けて検討し、そこに織りなされるアナング・ウェイを論じる。ここでの課題は、飲酒をめぐる一連の過程で、行政の管理や主流社会の規範、それを内包する自らの規範の隙間を縫うように進行するアナングの思考の道筋を描き出すことである。

第五章では、アナングの酒の資金源となっている生活給付金を利用したキャンバス（アボリジニ・アート）販売を取り上げる。アナングのキャンバス販売は、個人的な経済活動ではなく、画材道具や食料、車の乗り合いなど、集団内のものやサービスのやりとりを介して成し遂げられる。この互酬的な人間関係は、アボリジニの分配規則というよりは、その場その場の分配の創意工夫によって結ばれていることを示す。

第六章では、アナングが酒を獲得する過程を、彼らのクルージングや互酬性に注目して論じる。都市で酒屋への入店が拒まれるアナングは、酒を転売してくれる「協力者」を介して酒を入手する。「協力者」を探し出す過程は一見すると狩猟活動のようにもみえるが、アナングにとっては「狩り」ではなく「単なるタブレット（錠剤）の回収」である。彼らは酒を「毒」や「タブレット」と言い分けることで禁酒主義的な規範と自らの行為の矛盾やそこに生じるジレンマに対応していることを示す。

第七章では、獲得した酒の分配を、アナングの嫉妬の概念に着目して論じる。酒は居合わせたメンバーのあいだでは積極的ではないにしろ、諍いの起こらない程度に分けられる。しかし、その場に居合わせないメンバーに酒が残されることはほとんどない。分配を期待する不在者からの嫉妬を「災いの種」と忌み嫌う人びとは、酒宴の場で過剰に酒を飲んだ人物を厳しく咎めることで、不在者との関係に折り合いをつけていることを示す。

結論にあたる終章では、上述の民族誌的記述を踏まえ、飲酒をめぐる一連の過程で織りなされるアナング・ウェイを明らかにした。それは、ポスト植民地状況において、その場その場で語りを選択し互酬的な関係を開きながら「何か」が起きることに期待して動き続けるような、一見場当たり的な彼らの行為に垣間見られる非構造的な思考の道筋であり、「同化」か「抵抗」か、あるいは「西洋文明」か「先住民文化」といった対立言説では説明されえないものであることを示した。

[課程博士用]

論文審査の結果の要旨

氏　　名	平野智佳子
論 文 題 目	中央砂漠における飲酒をめぐる一連の過程とアナング・ウェイ―ポスト植民地状況を生きるオーストラリア先住民アボリジニの民族誌
判　　定	合　格 ・ 不 合 格
論文チェックソフトによる確　認	■ 確認 □ 未確認　理由：

審査委員	区　分	職　名	氏　名
	委 員 長	教授	柴田　佳子
	委　員	教授	岡田　浩樹
	委　員	教授	齋藤　剛
	委　員	准教授	石森　大知
	委　員		印

要　旨

本論文は、オーストラリア中央砂漠に居住するアボリジニ先住民「アナング」の飲酒行為をめぐる一連の過程とそこに立ち現れる「アナング・ウェイ」と呼ばれる思考形式に関する人類学的研究である。政府の先住民政策によって飲酒の規制を受けるアナングたちが酒に関して行使する一見無秩序で多様な行為や語りの検討を行い、「アナング・ウェイ」という彼らの独特な行動と思考形式を考察する。この考察を通して社会・文化において圧倒的な支配－被支配関係の下で生きるオーストラリア先住民アボリジニの非構造的な社会的行為、社会関係を支える世界観の解読を試みる。

本論文は中央砂漠における合計 12 カ月のフィールドワークを基にし、関連する報告や行政文書等、多数の文献資料のデータを十分に用い、人類学の研究史において膨大な蓄積のあるアボリジニ研究、先住民研究の先行研究を踏まえつつ、ポストコロニアル状況に置かれた現代のアボリジニ社会に関する新しい視点、アプローチを提示しようという意欲的な研究であり、文化人類学、先住民研究における学術的貢献が高いと認められる。

よって、学位申請者の平野智佳子氏は、博士（学術）の学位を得る資格があると認める。

論文の審査に先立って、申請者の学位請求論文資格について要件を満たしていることを確認した。

質疑応答は３時間にわたって行われ、まず学位請求論文の重要概念である「アナング・ウェイ」の捉え方をめぐる筆者と現地社会の人々の視点の差異、理念と実践の相違、現地社会における価値観の多様性の問題についての質問が集中した。論文で「クルージング」を「アナング・ウェイ」の具体例に位置づけることは恣意的な解釈ではないか、という疑義に対し、「クルージング」が白人的な「移動」と区別されていることを示すなど、的確に説明が行われた。

また、章立てのところで、酒を「狩る」などの章構成は、かつての狩猟採集民文化を基盤に現在のアボリジニ社会を解釈するアプローチであり、これは先行研究の検討において批判したことと矛盾するのではないかという疑義が出された。これに対し、現在のアナングは狩猟採集生活との区別を明確にした上で、先行研究との対比としてのアナロジーであるという説明がなされた。

この他、先行研究の批判的検討をめぐる疑義、語りと解釈の区分の不明瞭さ、先住民研究、ポストコロニアル研究と本論文の関係などについて質疑応答が行われ、審査員は、一応の水準に達した応答を行ったという評価にいたった。

なお、本文の公刊に際しては、取り扱われている内容が、法的な規制の隙間で行われている酒の入手、いわゆる先住民の社会問題となっているアルコール依存症とそれに伴うトラブルなどを記述している。政府の政策やアボリジニ支援団体や一部のアボリジニ団体の運動方針と乖離する現地の状況も扱われており、政治的なコンテクストも絡み合う。個人情報やデータの提示には学術的な価値とは別に十分な注意を要する。今後の英語での発表を見据え、インフォーマント、現地機関とも密接に交渉した上で実名などの表記を改稿すべきであることを、審査委員会は勧告した。

論文は、全体が３部、序章と終章を含めて 10 章で構成されている。第Ⅰ部は２章からなり、オーストラリア植民地主義と先住民アボリジニの関係を、北部準州の飲酒政策や中央砂漠の白人による開拓といったアボリジニの歴史的経験から論じる。入植にともなう社会変化へのアボリジニの反応や取り組みの分析を通じて、植民地主流社会とアボリジニの関係が複雑に交錯するポスト植民地状況を示し、現在のアボリジニの生活状況を概観する。同じく２章からなる第Ⅱ部では、中央砂漠で「アナング」を自称／他称とする人びとに焦点をあて、その場と状況に応じて紡ぎ出される飲酒をめぐる思考、互酬性、社会関係を記述し、彼らが自らの行動や関係を表現する「アナング・ウェイ」に着目する。「アナング・ウェイ」は飲酒を越え、アナングの思考のあり方を理解する手がかりであることを示している。先行研究における「本来の」アボリジニの社会秩序や親族体系などの体系的な社会構造や文化とは異なる、現在のアナングの流動的な社会関係、即興的な思考のあり方を捉え直すことを試みる。第Ⅲ部は 3 章からなり、飲酒行為に再び焦点を当て詳細に検討することで、ポスト植民地状況における「アナング・ウェイ」とは何かを検討する。具体的にはアナングが酒を手に入れる過程を、①酒の資金を稼ぐ、②酒を獲得する、③酒を分配する、の三段階に分けて検討し、そこに織りなされる「アナング・ウェイ」を論じる。飲酒をめぐる一連の過程で、白人マジョリティの規範を内在化した自らの規範と現実生活の乖離を縫うようなアナングの思考が示される。終章では、これまでの議論を総括した上で、「アナング・ウェイ」とは、ポスト植民地状況において、状況ごとに語りを選択し互酬的な関係を築き、そこで「何か」が起きることに期待する行為を説明する非構造的な思考方式であり、従来の抵抗、西洋文明／先住民文化といった対立図式では説明できない、現在のアボリジニの生存戦略であると結論づけている。